

関係者評価報告

優和福祉専門学校
学校関係者評価委員会

評価項目ごとの委員の評価・意見

1 教育理念・目標

新カリキュラムで求められる介護福祉士像は、かなりレベルの高いものであり、教育内容・方法ともに充実させていく必要がある。現時点でも教育目標を達成するため教員一同、教育内容の充実・きめ細やかな指導に励んでいるが、さらに創意工夫が求められる。又、介護福祉士を目指す人材確保のため介護の魅力を啓蒙していく努力が必要であると思われる。

2 学校運営

教育目標を達成するため、事業計画を策定し、機能的な運営組織や意思決定により学校運営が行われている。

シラバス・評価基準・経営状況等ホームページ上で公開している。会議資料の簡素化・標準化をはかり、効率的で合理的に進める必要がある。学生確保が急務であるが介護を志望する高校生は少ない。子供たちは、高齢者・障がい者と接する機会が少なく身近でない。保護者も介護の仕事を勧めない傾向にある。

3 教育活動

充実した講義・実習により効果的な教育活動がなされている。新カリキュラムではコミュニケーション能力やマネジメント能力が求められており、コミュニケーション能力等を向上させるカリキュラムの充実を図るとともに、多職種と連携していける視野と、判断力を育成していく必要がある。又、学生の授業評価をより充実させると共に、学校関係者評価委員会等の充実を図り、教育評価体制を強化していく必要がある。今後は授業や評価についても公開し、公明性を担保していきたい。

4 学習成果

今年度の卒業予定者は入学時より一人の退学者もなく、全員卒業の見込みである。丁寧で忍耐強く指導してきた成果と考える。

国家試験合格率はH30年90% H31年100%であった。入学時より学習が困難な学生についても個別性を考慮した国家試験対策により、かなり成績が伸びており、学習成果が上がっている。

5 学生支援

学生の支援については、担任を中心に個別に丁寧な助言、サポートができています。学習継続が困難になった学生にも根気強く関わり相談に応じています。学生のレディネスに開きがあるが、一人一人に合わせて個別的なきめ細やかな指導ができていますのは良い。卒業生が学校に立ち寄り、就職先での悩みなど教員に相談しており、成長を促す助言をしている。やむを得ず介護施設を退職する折は、転職に向けての情報提供にも応じています。又、介護実習で就職先に赴く折、卒業生に声をかけて、励ますなど支援している。

6 教育環境

教育環境は比較的整えられている。実務経験豊富な講師により充実した授業が行われている。実習については、実習指導が充実している施設にお願いしており、実習指導者が学生の実習指導を十分できるよう環境調整がなされいて、効果的な学生の指導がされている。実習施設として選ばれるためには指導者が介護の魅力を伝えていく必要があり、良いモデルを示すことで、就職にも結びつくと考える。実際、実習先の施設に就職を希望する学生が多い。教員としても学生の個別性を考慮し、その学生にあった就職先を考え助言している。

7 学生の受入れ募集

学校案内、募集要項、各種チラシ等を作成し、高校訪問、オープンキャンパスなどの学生募集活動を展開している。核家族化が進む中お年寄りと接する機会も減っており、介護福祉士に接する機会が少ない。マスコミ等での情報はマイナスイメージが強く、保護者も子どもに勧めない傾向がある。ガイダンス等で介護のやりがいについて話し、給与等についても説明すると認識を変えてくださる保護者もいて、引き続き誤解が解けるように啓蒙していく必要がある。今後も広報活動を通して介護の魅力を発信し、創意工夫した募集活動を強化充実し、入学生の確保を行ってほしい。

外国人の受験は制限していないが受験生はいなかった。次年度についても問い合わせはあったが、受験には至っていない。

外国人を実際に受け入れている施設では、複数配置の職場で指導監督しており、日本語の課題はあっても介護ができています。給与についても満足しており、今後ますます外国人の介護職員は増えていくものと思われる。技能実習生として来る外国人も増えるが、介護福祉士の国家資格を持つものがリーダーシップを発揮し、指導助言ができるようにしていく必要がある。

8 財 務

財務・監査は適正に執行されている。又、学校の透明性を図るため今年度より、ホームページ上で情報公開している。今なお学生数の減少は続いており厳しい経営状況ではあるが、社会のニーズは非常に高く介護福祉士を一人でも多く輩出する必要があり、引き続き学生確保に努めていく。

9 法令等の遵守

法令に則った適正な運営がなされている。個人情報の保護対策では、学生及び教職員の情報取扱の指針に則って留意することを継続していく。

10 社会貢献・地域貢献

社会貢献・地域貢献に前向きに対応しており評価できる。ボランティア活動も積極的に参加している。又、介護の魅力発信のため社会福祉協議会主催のイベントや介護の日のキャンペーンなど他校の学生と協働する機会は、良い刺激を受ける場となった。

○ 学校関係者評価委員会

学校関係者評価委員

委員長 栗原 信 業界関係者（社会福祉法人 信和会 理事長）
委 員 甘利 俊明 業界関係者（一般社団法人 山梨県介護福祉士会 会長）
委 員 堀田 潔 業界関係者（特別養護老人ホーム 和楽 施設長）

事務局 伊藤祐寛 理事長・校長
藤森正貴 事務長
塩澤紀子 教頭
高野享子（介護福祉科）
堀内久子（介護福祉科）
山本浩美（介護福祉科）
深澤ひろみ（総務部）

委員会の開催状況

第1回委員会 令和2年2月26日（会場 優和福祉専門学校 図書室）